

## 西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 12 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

6 月 11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

### 活動概況

< 12 月 4 日の状況 >

国土地理院が防衛省の協力で撮影した空中写真を解析したところ西之島で最も高い地点の標高は、約 110m でした（7 月 4 日の最高標高は約 74m）。

< 12 月 23 日までの状況 >

東京大学地震研究所が、噴火活動により新たに形成された部分の面積、噴出量、噴出率について 12 月 23 日までの状況をまとめたところ、噴出量は 8000 ~ 9000 万 m<sup>3</sup> で噴出率は 11 月よりやや低下したものの、10-20 万 m<sup>3</sup> / day と推定され、活発な状況が続いています。

< 12 月 25 日の状況（図 3 ~ 4、図 6） >

海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口では間欠的に溶岩片と共に灰色の噴煙を放出する噴火を繰り返していました（図 3）。また、溶岩流は火口から北西及び北東側に流下していました（図 4）。先端は複数に分布して扇状に広がり海岸に達していました。新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,710m、南北方向に約 1,830m、面積は約 2.29km<sup>2</sup>（前回 10 月 16 日：1.85 km<sup>2</sup>）でした（図 6）。

変色水は、薄い青白色で西之島の北岸、東岸及び南岸に沿って幅約 100 ~ 300m に分布しているのが確認されました。また、西之島の西岸に沿って幅約 100 ~ 200m で黄緑色の変色水が分布しているのが確認されました。

< 12 月 31 日の状況（図 5） >

第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、第 7 火口で白色噴煙を確認されました。

変色水は、薄い黄緑色で西之島の東岸、北岸及び西岸に沿って幅約 100 ~ 300m に分布しているのが確認されました（図 5）。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 1 月分）は平成 27 年 2 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

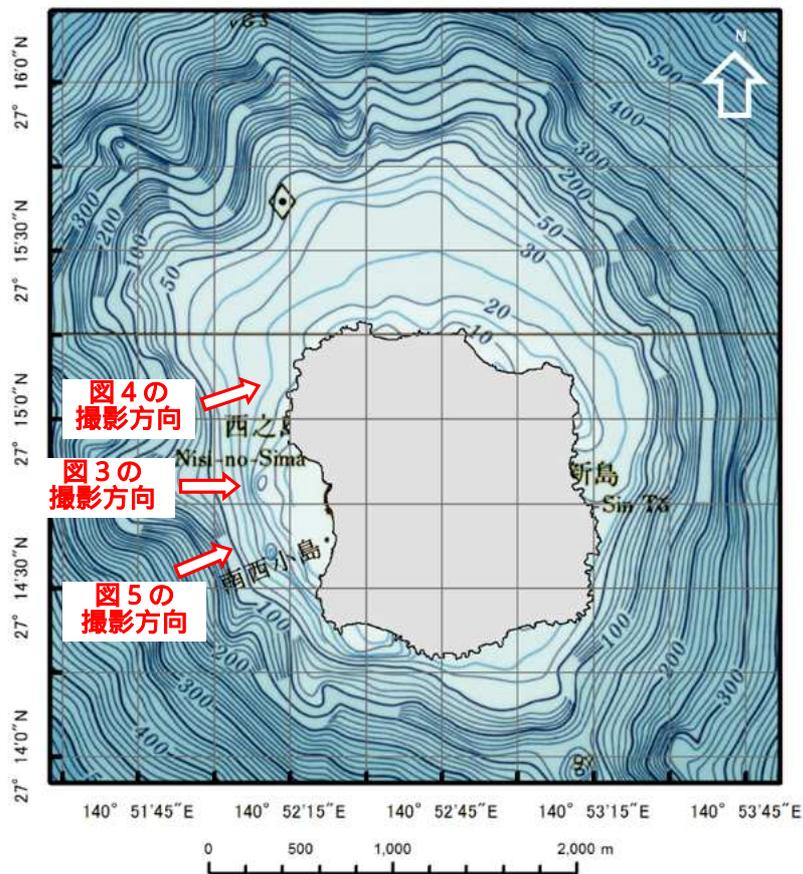


図2 西之島 主な撮影方向  
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 第7火口の状況（12月25日11時21分 西方向から撮影・海上保安庁提供）  
第7火口では、間欠的に溶岩片と共に灰色の噴煙を放出しているのが確認されました。



図4 西之島 火口の状況（12月25日12時57分 西南西方向から撮影・海上保安庁提供）  
溶岩流は火口から北西及び北東側に流下しているのが確認されました。



図5 西之島 変色水域の状況(12月31日13時22分 西南西方向から撮影・第三管区海上保安本部提供) 薄い黄緑色の変色水が西之島の北岸、東岸及び西岸に沿って分布しているのが確認されました。

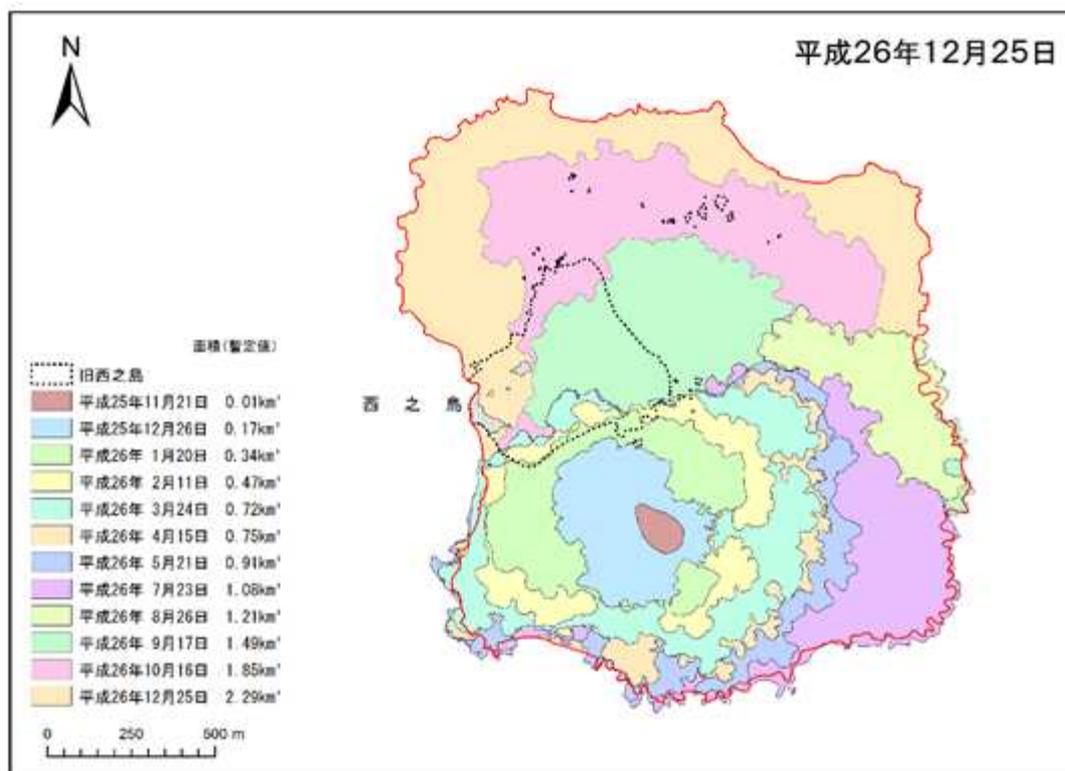


図6 西之島 面積変化図（海上保安庁作成）